

Design in the Andes



ごあいさつ

昨年の夏にご寄贈をいただいた 100 点を超える南米アンデスの染織品の調査と整理が進み、その一部を公開する運びとなりました。

アンデス文明は、現ペルーの太平洋海岸地帯からボリビア西部の高地一帯に発達した古代文明です。アンデス文明の大きな特徴として、文字を持たないことがあげられます。代わりに文様が発達し、染織品はそのイメージを伝達する重要な役割を果たしました。アンデスの高原地帯では紀元前 5000 年ごろからリヤマやアルパカが家畜化され、いっぽう海岸地帯では紀元前 2000 年ごろにワタの栽培がはじまります。染織品の材料となる獣毛や良質の木綿に恵まれ、紡いだ糸を編んだり、織ったり、染めたりしてさまざまな染織品が作られました。

アンデスと一口に言っても、時代や地域によって作りだされる染織品には違いがみられます。今回の展示では、紀元前 2 世紀ごろのパラカス文化から 16 世紀のインカ文化に至るアンデス文明の各文化期に咲き誇った色とりどりの染織品を紹介します。特に、そのデザインに注目しました。神像や人物像をはじめ、アンデスの山間に生息するピューマ、コンドル、ヘビ、鳥、魚などの動物が実にユニークに表現されています。なかでも神像は動物を擬人化し、ヒトと動物とが合体した姿であらわされました。そこには動物を崇拝するアニミズムの宗教観がみられます。自然への畏敬の念をいだきながら、豊かな想像力から生み出されたデザインは、アンデス独自の世界を展開します。

糸が彩なすアンデス染織品の想像力豊かな美をお楽しみください。

関西学院大学博物館開設準備室



目次

ごあいさつ

文化年表	04
地図	05

図版

バラカス文化	06
ナスカ文化	08
ワリ文化	10
汎ワリ・モチェ文化	12
ワルメイ文化	14
汎ワリ・海岸文化	16
チム文化	22
チャンカイ文化	26
イカ文化（後期）	37
パティヴィルカ文化	38
インカ文化	42
作品リスト	46
参考文献一覧	47

凡例

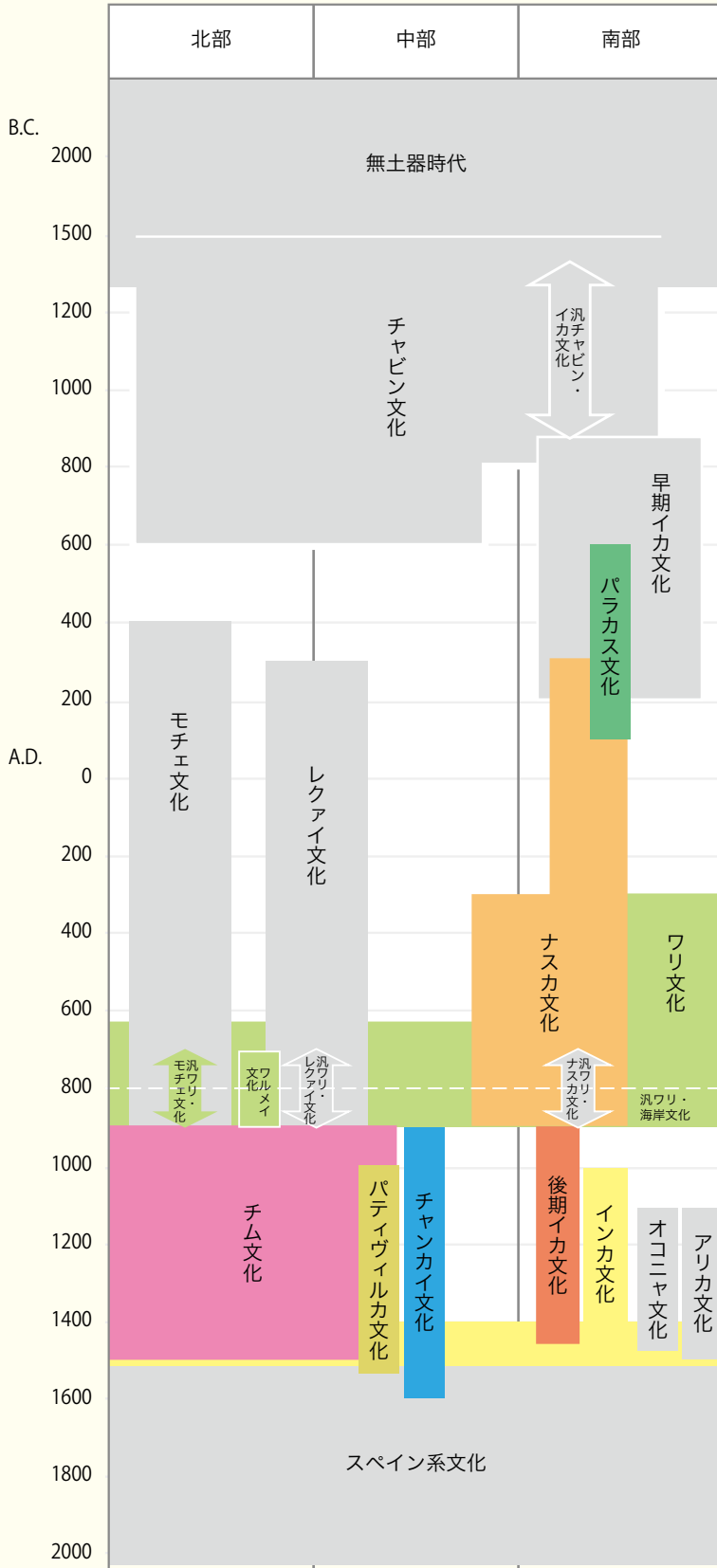
- ・本図録は2012年4月2日（月）～2012年6月9日（土）まで開催する展覧会「アンデスのデザイン Design in the Andes」の図録である。
- ・出品作品はすべて関西学院の所蔵である。
- ・作品番号は展覧会場の作品番号と一致するが、陳列順序とは必ずしも一致しない。
- ・会場に展示した作品の内、参考出品は図録に掲載していない。
- ・図版ページに記載した作品情報は、作品番号、作品名称、技法、様式、年代の順に記した。
- ・出品作品の出土地は不明であるため、推定される出土地域を様式として記した。
- ・掲載の文化年表と地図は、出品作品に関係する文化および染織品が出土した文化に焦点を当てたものであり、アンデス文明のすべての文化を記していない。
- ・巻末に付属する作品リスト記載寸法の縦と横は、図版ページに掲載した作品の方向に準ずる。
- ・各文化の創始・継続した年代は、前後100年～200年をみるものもある。
- ・図版解説は高木香奈子（関西学院大学博物館開設準備室学芸アシスタント）と福本有寿子（関西学院大学博物館開設準備室学芸アシスタント）が執筆した。
- ・写真撮影は深井純（関西学院大学博物館開設準備室教育技術主事）が担当し、高木香奈子、福本有寿子、小川依（関西学院大学大学院文学研究科）が補助した。
- ・本書のブックデザインおよび文化年表、地図の作成、キャラクターデザインは秋山尚美（関西学院大学博物館開設準備室）が担当した。
- ・本書の編集および構成は、高木香奈子と福本有寿子が担当した。

アンデスデザイン

design in the Andes



文化年表





エクアドル共和国

トゥンベス川

チラ川

ピウラ川

ランバイエケ川

ヘケテベケ川

チカマ川

モチェ川

ブルー川

チャオ川

サンタ川

ネベニヤ川

カスマ川

クレブラス川

ワルメイ川

フォルタレサ川

パティヴィルカ川

スーベ川

ワウラ川

チャンカイ川

チヨン川

リマック川

ルリン川

チルカ川

マラ川

オマス川

カニューテ川

チンチャ川

ビスコ川

イカ川

グランデ川

アカリ川

ヤウカ川

コロンカマヤ川

バスタサ川

アマゾン川

ウカヤリ川

ワヤカ川

チャビン・テ・ワンタル

レクワイ

ワルメイ

パティヴィルカ

チャンカイ

リマ

ワリ

アヤクチョ

マチュ・ピチュ

クスコ

シクアニ

チンチャ

ビスコ

イカ

カワチ

ナスカ

オコニヤ

カマナ

カマナ

シワス川

ビトル川

タンボ川

モケグア川

ロクンバ川

サマ川

カプリーナ川

ユタ川

アリカ

ティアワナコ

北部海岸地域

中部海岸地域

南部海岸地域

北部高原地域

中部高原地域

ペルー共和国

南部高原地域

ボリビア共和国

チリ共和国

太平洋

文化

バラカス文化	B.C. 600 - B.C. 100
ナスカ文化	B.C. 300 - A.D. 650
モチェ文化	B.C. 400 - A.D. 700
ワリ文化	A.D. 300 - A.D. 900
チム文化	A.D. 900 - A.D. 1500
チャンカイ文化	A.D. 900 - A.D. 1600
イカ文化	A.D. 900 - A.D. 1430
インカ文化	A.D. 1300 - A.D. 1532

●—遺跡
●—現在の都市

パラカス文化

B.C. 600 - B.C. 100

パラカス文化以前の南米大陸では、紀元前 1500 年頃より北部高地チャビン・デ・ワンタルを起源とし、ヤウカ川流域の南部海岸地域にまで広まったチャビン文化が存在した。その文化の影響を受けて南部海岸イカ川流域では紀元前 1400 年頃より独自の文化、汎チャビン・イカ文化を築いたが、これらの文化が力を失い、イカ川流域からパラカス半島にかけて勢力を伸ばしたのがパラカス文化である。

イカ川流域では灌漑などの農耕技術の進歩とともに、作物の生産高、人口が増え、海岸地帯から離れた高地との交易も盛んに行われるようになった。こうしたことから、高地で飼育されるリヤマなどの獣毛を使った糸も手に入りやすくなり、海岸地帯ではあまり使われることのなかった獣毛糸が大量に使用されることとなる。染色性の高い獣毛糸の利用により、パラカスの染織品は色彩に富んだものとなっている。

パラカスの染織品は墳墓に埋葬されたミイラの包み布や副葬品が今日まで伝わっている。手足を曲げて小さく梱包されたミイラは、平らな駕籠の上に乗せられて刺繍が施された豪華なマントや貫頭衣、紐などを使って幾重にも包まれた。このような丁寧なミイラ作りが始まったのもパラカス文化の頃とされ、獣毛の使用とともにアンデスの染織文化が発展を遂げた時期である。



我が祖先はチャビン文化でピューマ神とかジャガー神と呼ばれるネコ科動物を象った神様だった。ほれ、尾が生えておるだろう。

全部刺繍でできているんだよ。赤い地の部分を先に繙って、後から黄や緑の糸で文様を繙うんだ。

頭からは蛇が生えて、首級も持っているよ。



鮮やかな赤色はコチニールで染めたものさ。茜に代わってコチニールが使われ始めた頃で、時代の最先端だぜ。

ワリ・カヤンにはパラカスの共同墓地があったんだよ。

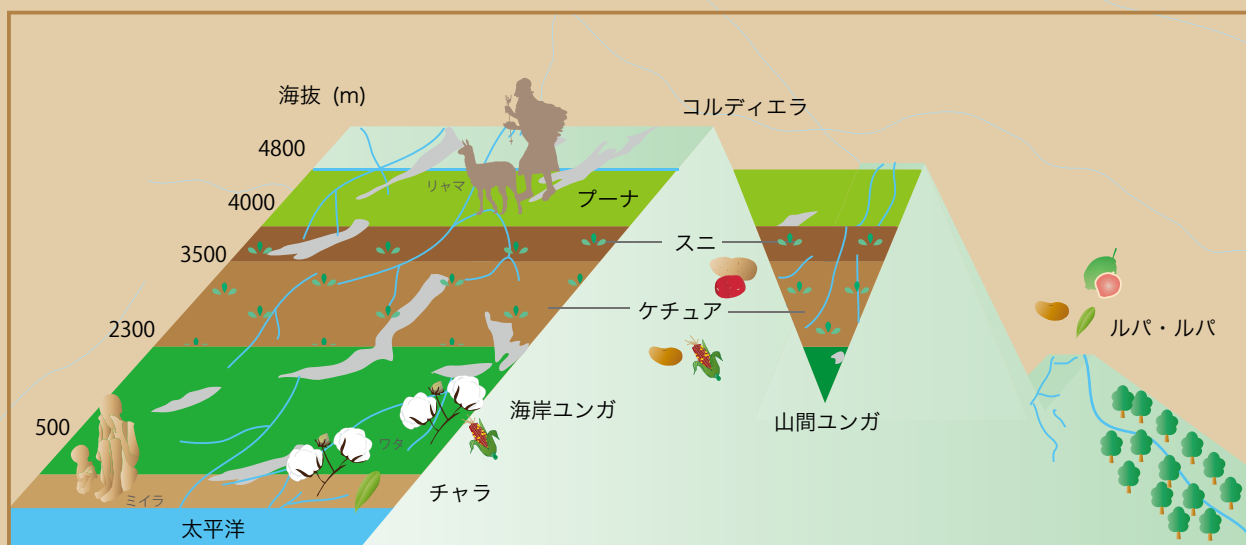
- 1 神像文様衣服断片（縁飾り）
平織、返し縫い刺繍
南部海岸パラカス半島ワリ・カヤン様式
紀元前 2 世紀

リヤマを連れて人が糸を紡ぎながら歩いているよ。紡錘を垂らし、回転させて糸を撚るんだね。



あっちの女性は、受皿に紡錘を立てて回転させている。他にも繊維と紡錘を水平に持って指先で回転させる方法もあるよ。

紡錘を使った糸の紡ぎ方



アンデス環境区分概略図

アンデス地帯は海岸地帯から6000mを超える山脈まで、砂漠や高地、盆地、熱帯雨林など様々な環境が混在しているんだ。



いろんな文化が栄えた沿岸部のチャラでは、川の近くに人々の生活の場があり、川と川の中の砂漠にはミイラが埋められたんだよ。



チャラやユンガの川付近では、紀元前 2000 年頃から木綿が栽培されていたんだ。リヤマやアルパカは紀元前 5000 年頃から高地のブーナで家畜として飼われていたよ。



ナスカ文化

B.C. 300 - A.D. 650

南部海岸地域のチンチャ川からグランデ川流域に始まったナスカ文化は、温順な気候のもと農耕と漁撈の安定した生活に支えられ、最盛期にはヤウカ川流域の海岸地域や南部山岳地帯ワリ、チリ北部のアタカマ砂漠にわたる広範囲に影響を及ぼした。

地上絵で有名なナスカであるが、それはグランデ川の支流ナスカ川周辺の台地に展開され、その近辺にはカワチと呼ばれる建築複合遺跡がある。カワチは紀元前後から祭祀センターとして利用され、後200年から後300年頃になると一部を除いて墓地に変わったという。この遺跡からは装飾土器や儀礼用具の楽器のほか、染織品が多数見つかった。

ナスカの染織文化は、パラカスの様式を受け継ぎながらもそれを発展させ、さらに多彩で華やかなものとなった。染織品に表される文様は、戦士像や戦勝首級を持つ神像も存在するが、豊穡神と見られる農作物を持つ神像や魚を喰える水鳥、コンドルといったより身近な動植物が表現され、豊かな生活を讃える文様が見られるようになる。技術面では多様な技法の組み合わせや生地両面が表となる製織技術がみられ、複雑で高度な染織技法を有していたことがわかる。独創性溢れる文様とそれを表現する技術の巧妙さ、多様性から、ナスカの染織品は古代アンデス染織史の中でも最高水準に位置づけられ、アンデス染織文化が最も繁栄した時期といえる。

パラカス半島

チンチャ川

ビスコ川

イカ川

グランデ川

アカリ川

ヤウカ川

カワチ

ナスカ



2 人物文様肩掛け断片（女性用肩掛け）

平織、ルーピング 南部海岸リオ・グランデ流域カワチ様式 紀元1～2世紀



3 幾何学文様房付き紐（頭飾り）

二重経両面紋織、ルーピング 南部海岸リオ・グランデ流域カワチ様式 紀元3～4世紀



4 鳥文様衣服断片（縁飾り）

平織、返し縫い刺繍 南部海岸リオ・グランデ流域カワチ様式 紀元0～1世紀



海鳥が魚をくわえているよ。
尾の形が違う色々な鳥がいるね。
三角形の尾をしたのはコンドルかな？
下にもたくさんいるよ。



とてもカラフルだね。
赤、青、緑、白、それから…2色の糸を
撚りあわせた糸もくいとも使っているんだね！

房飾りは刺繍と同じ糸を使っ
て作ることが多いんだよ。



5 鳥文様衣服断片（縁飾り）

平織、返し縫い刺繍 南部海岸リオ・グランデ流域カワチ様式 紀元0～1世紀

コンドルはアンデス山脈の鳥なんだ。
尖った嘴くちばしに羽先の割れた翼、末広がりはしの尾、
その横から足を出しているのが特徴だよ。



自由に空を飛べる鳥は神様との間を行き来できる特別な存在なんだ。
パラカスとカナスカの土器・染織品には、「空翔ぶ人」と呼ばれるシャーマン像が描かれているよ。
天空や冥界に飛んでいって神様や霊に働きかける能力があるんだって。

そういう僕も実は空を飛んでいるんだよ。
長い舌や口髭、獣のように鋭い爪の手足…どこことなく似ているな…



6 獣神文様衣服断片（縁飾り）

平織、返し縫い刺繍
南部海岸リオ・グランデ流域カワチ様式 紀元2～3世紀

出品リスト

文化	番号	作品名	年代	様式	技法	材質	
バラカス文化	1	神像文様衣服断片（緑飾り）	紀元前2世紀	南部海岸バラカス半島 ワリ・カヤン様式	平織、 返し縫い・刺繍	木綿、獣毛	91.0×10.0
ナスカ文化	2	人物文様肩掛け断片（女性用肩掛け）	紀元1-2世紀	南部海岸リオ・グランデ流域 カワチ様式	平織、ルーベング	木綿、獣毛	28.2×92.5
	3	幾何学文様房付き紐（頭飾り）	紀元3-4世紀	南部海岸リオ・グランデ流域 カワチ様式	二重経両面紋織、 ルーベング	木綿、獣毛	長さ合計 67.0×紐幅 1.0
	4	鳥文様衣服断片（緑飾り）	紀元0-1世紀	南部海岸リオ・グランデ流域 カワチ様式	平織、 返し縫い・刺繍	木綿、獣毛	16.5×96.0
	5	鳥文様衣服断片（緑飾り）	紀元0-1世紀	南部海岸リオ・グランデ流域 カワチ様式	平織、 返し縫い・刺繍	木綿、獣毛	3.0×86.5
	6	獣神文様衣服断片（緑飾り）	紀元2-3世紀	南部海岸リオ・グランデ流域 カワチ様式	平織、 返し縫い・刺繍	木綿、獣毛	29.5×2.6 (+房3.0)
ワリ文化	7	蛇文様紐	紀元7世紀	中部海岸様式	綴織	木綿、獣毛	61.0×3.0
汎ワリ・モチェ文化	8	有翼神像文様裂	紀元8-9世紀	北部海岸モチェ谷様式	綴織	木綿、獣毛	18.5×26.5
ワルメイ文化	9	菱文様衣服断片（貫頭衣裾飾り）	紀元8-9世紀	北部南端海岸ワルメイ谷様式	綴織	木綿、獣毛	55.0×12.0
	10	神像文様衣服断片（貫頭衣裾飾り）	紀元8-9世紀	北部南端海岸ワルメイ谷様式	綴織	木綿、獣毛	13.3×43.5
汎ワリ・海岸文化	11	神像文様帯断片	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織	木綿、獣毛	47.5×10.5
	12	神像文様頭帯断片	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	四重経両面風通	木綿、獣毛	75.0×6.5
	13	神像文様紐	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	四重経両面風通	木綿、獣毛	73.5×5.0
	14	咋鳥文様衣服断片	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織、縫取織、平織	木綿、獣毛	6.0×76.7
	15	神像文様衣服断片（男用マント）	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織、二重緯両面 紋織	木綿、獣毛	8.5×34.5
	16	神像文様衣服断片（男用マント）	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織、二重緯両面 紋織	木綿、獣毛	15.5×33.5
	17	動物抽象文様頭帯	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織、二重緯両面 紋織、刺繍	木綿、獣毛	45.5×5.5
	18	動物抽象文様頭帯	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	綴織、二重緯両面 紋織、平織	木綿、獣毛	47.0×5.5
	19	神像と双頭のビューマ文様頭帯	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	平織、縫取織	木綿、獣毛	33.8×3.0 (片方)
	20	獣文様衣服断片（男用マント）	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	平織、縫取織	木綿、獣毛	31.0×27.0
	21	獣に幾何学文様衣服断片 （男用マント）	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	平織、縫取織、綴 織、二重緯両面紋 織	木綿、獣毛	39.5×30.0
	22	人面幾何学文様帽子断片	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	類単一結環組織に 切輪奈	獣毛	9.5×46.8
	23	幾何学文様帽子	紀元8-10世紀	海岸地帯一帯様式	類単一結環組織に 切輪奈	獣毛	11.5×21.5
	24	幾何学文様衣服断片（男用マント）	紀元8-10世紀	南海岸カマナ谷様式	経緯掛続き平織、 絞染	木綿	98.0×69.0
チム文化	25	擬人化動物文様衣服断片（まわし）	紀元12-14世紀	北部海岸南部バカタナム様式	綴織	木綿、獣毛	94.6×123.5
	26	鉤階段人物文様衣服断片	紀元12-14世紀	北部海岸南部バカタナム様式	綴織	木綿、獣毛	143.0×128.0
	27	鳥に円文様衣服断片	紀元12-14世紀	北部海岸南部バカタナム様式	綴織	木綿、獣毛	34.0×15.5
	28	階段に猫魚文様衣服断片	紀元12-14世紀	北部海岸様式	綴織	木綿、獣毛	20.5×44.5
	29	人物猫科動物文様裂	紀元12-14世紀	北部海岸様式	描繪	木綿	左64.5 右66.5×8.3
	30	神人文様裂	紀元12-14世紀	北部海岸様式	綴織	木綿、獣毛	22.5×19.5
チャンカイ文化	31	鳥文様裂	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	綴織	木綿、獣毛	41.0×37.2
	32	擬人化動物文様ドレス断片（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	描繪	木綿	102.0×120.0
	33	菱幾何学文様衣服断片（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	浮織	木綿、獣毛	17.8×25.5
	34	竊に鳥魚文様衣服断片（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	経浮紋織	木綿	56.8×16.5
	35	鉤階段文様衣服断片（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	浮織	木綿	40.0×18.0
	36	幾何学文様紐	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	二重経両面紋織	獣毛	50.0×3.0
	37	鳥人物文様ヴェール（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	刺繍レース (紗、刺繍)	木綿	89.0×105.5
	38	鳥動物文様ヴェール（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	刺繍レース (文羅、刺繍)	木綿	86.0×62.3
	39	獣面文様ヴェール（女性用）	紀元13-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	刺繍レース (紗、羅、刺繍)	木綿	85.0×76.0
	40	階段に鳥魚文様裂（副葬用機）	紀元14-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	二重織	木綿	47.0×50.0 布43.5×29.0
	41	人物鳥動物幾何学文様見本織り（機）	紀元14-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	綴織、二重織	木綿、獣毛	65.0×16.5
	42	波に鳥猫科動物文様貫頭衣裾飾り断片 （男性用）	紀元14-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式 インカ期	綴織	木綿、獣毛	44.0×61.5
	43	獣神文様衣服飾り	紀元14-15世紀	中部海岸チャンカイ谷様式	綴織	木綿、獣毛	82.0×25.0
イカ文化（後期）	44	鳥組み合わせ文様紐	紀元12-14世紀	中部海岸イカ谷様式	復縁緯紋織	木綿、獣毛	63.5×5.5
	45	鳥組み合わせ文様紐	紀元12-14世紀	中部海岸イカ谷様式	三重経紋織	木綿、獣毛	48.0×4.0
	46	鳥魚階段文様衣服断片	紀元12-14世紀	中部海岸イカ谷様式	綴織	木綿、獣毛	下 17.0×60.5 上 19.0×65.0

文化	番号	作品名	年代	様式	技法	材質	
パティヴィルカ文化	47	鳥組み合わせ文様衣服断片	紀元12-14世紀	中部海岸イカ谷バルバ様式	縫取織	木綿、獣毛	14.8×26.2
	48	鳥文様ドレス断片 (女性用)	紀元13-14世紀	中部海岸パティヴィルカ谷様式	平織、ルーピング	木綿、獣毛	92.5×129.0
	49	鳥文様ドレス断片 (女性用)	紀元13-14世紀	中部海岸パティヴィルカ谷様式	平織、ルーピング	木綿、獣毛	上から 13.5×47.0 12.5×47.0 13.0×46.5 左 13.5×18.0 右 13.5×27.0
	50	鳥人物文様ドレス断片 (女性用)	紀元13-14世紀	中部海岸パティヴィルカ谷様式	平織、ルーピング	木綿、獣毛	25.2×63.0
	51	獣面文様衣類断片 (女性用)	紀元12-14世紀	中部海岸パティヴィルカ谷様式	経糸による紋織り	木綿、獣毛	57.0×5.5
	52	鳥魚組み合わせ文様衣類断片 (女性用)	紀元12-14世紀	中部海岸パティヴィルカ谷様式	経糸による紋織り	木綿、獣毛	74.0×7.0
インカ文化	53	リヤマ文様コカ袋	紀元15-16世紀	海岸地帯一帯様式	本体:綴織、口部分: ルーピング	木綿、獣毛	36.0×19.0 紐41.0
	54	リヤマ文様コカ袋	紀元15-16世紀	海岸地帯一帯様式	本体:ルーピング、 口部分:平織	獣毛	61.0×36.0
	55	幾何学文様紐	紀元15-16世紀	南部山岳地帯様式	四重経風通	獣毛	68.2×2.7
	56	獣面幾何学文様紐	紀元15-16世紀	南部海岸様式	四重経二層風通	獣毛	1290×1.8
	57	幾何学文様紐	紀元12-14世紀	中部海岸様式	二重経両面紋織	獣毛	74.0×4.0
	58	動物抽象文様帯	紀元13-14世紀	南部海岸様式	二重織	獣毛	71.5×9.5 付属紐 24.0
	59	幾何学文様帯	紀元13-14世紀	中部海岸様式	二重織	獣毛	47.0×12.0
	60	幾何学文様衣服断片	紀元15-16世紀	南部海岸様式	類複雑平組織経締	獣毛	73.0×13.8
	61	鳥魚組み合わせ文様衣服断片	紀元15-16世紀	南部海岸様式	類複雑平組織経締	獣毛	53.0×18.5

参考文献

- 『南米プレインカ染織図録』〈第1-6輯〉 鐘淵紡績株式会社 編 京都書院 1956年
- 『プレインカ秘寶図録』 泉靖一 三一書房 1964年
- 『泉靖一著作集 4 アンデスの古代文化』 泉靖一 読売新聞社 1971年
- 『プレインカの織物文様』 前山寿美子 グラフィック社 1976年
- 『アンデスの染織 天野博物館染織図録』 天野博物館 同朋舎 1977年
- 『アンデス文明—石期からインカ帝国まで—』 L.G.ルンプレラス 著 増田義郎 訳 岩波書店 1977年
- 『染織の美』第20号 吉岡幸雄 編 京都書院 1982年
- 『民族の世界史13 民族交錯のアメリカ大陸』 大貫良夫 編 山川出版社 1984年
- 『小原流芸術参考館所蔵 アンデスの染織と工芸』 三杉隆敏 中島章子 田中弘二郎 紫紅社 1985年
- 『アンデス大地』 高野潤 山と溪谷社 1988年
- 『鐘紡コレクション 4 外国の染織』 吉岡幸雄 編 毎日新聞社 1988年
- 『大アンデス文明展:図録』 朝日新聞大阪本社企画部 1989年
- 『古代アンデス美術』 増田義郎 島田泉 編 岩波書店 1991年
- 『ひとものこころ 第3期 第4巻 天理大学附属天理参考館所蔵』 天理大学 天理教道友社 編 天理教道友社 1991年
- 『ジャガーの足跡—アンデス・アマゾンの宗教と儀礼』 友枝啓泰 松本亮三 編 東海大学出版会 1992年
- 『アンデス悠遠 橋本僖元写真集』 橋本僖元 新潮社 1993年
- 『黄金の都シカンを掘る』 島田泉 朝日新聞社 1994年
- 『リヤマとアルバカー—アンデスの先住民社会と牧畜文化』 稲村哲也 花伝社 1995年
- 『アンデスの宗教的世界—ペルーにおける山の神信仰の現在性—』 細谷広美 明石書店 1997年
- 『アンデスの染織技法—織技と組織図』 鈴木三八子 紫紅社 1999年
- 『インカ帝国歴史図鑑:先コロンプス期ペルーの発展、紀元1000~1534年』 ラウラ・ラウレンチック・ミネリ 編著 増田義郎 竹内和世 訳 東洋書林 2002年
- 『アンデス・シャーマンとの対話—宗教人類学者が見たアンデスの宇宙観—』 実松克義 現代書館 2005年
- 『シリーズ:諸文明の起源12 古代アンデス権力の考古学』 関雄二 京都大学学術出版会 2006年
- 『NHKスペシャル 失われた文明 アンデス ミイラ』 恩田陸 NHK「失われた文明」プロジェクト 日本放送出版協会 (NHK出版) 2007年
- 『COCHINEAL RED The Art History of a Color』 Elena Phipps The Metropolitan Museum of Art / Yale University Press 2010年
- 『インカ帝国の成立—先スペイン期アンデスの社会動態と構造』 渡部森哉 春風社 2010年
- 『古代アンデス 神殿から始まる文明』 大貫良夫 加藤泰建 関雄二 編 朝日新聞出版 2010年
- 『世界の考古学1 アンデスの考古学 改訂版』 関雄二 同成社 2010年

謝 辞

本展覧会の開催ならびに本図録の編集にあたり、梶谷宣子氏からは多大なご協力を賜りました。
記して深く感謝申し上げます。

アンデスのデザイン Design in the Andes

2012年4月2日発行

編集・発行 関西学院大学博物館開設準備室
〒662-8501
西宮市上ヶ原一番町 1-155

印刷・製本 日本写真印刷株式会社

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
MUSEUM PLANNING OFFICE 2012